

## 平成 28 年度 研究成果報告書

### Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 講師
氏名 Name	村田 真実
専門分野 Academic Field	方言学・社会言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	<p>① accent class division (ACD)の分析モデルの構築</p> <p>② 方言文末詞「デ」の音調と機能について</p> <p>③ 集団的知性及び意志決定ルールに基づく支援ツールの試作</p> <p>④ 日本語諸方言における有声性について</p>
<p>① 昨年度に引き続き、ACD の研究を行った。データの再検討を行った。成果は以下の通り。</p> <p>●村田真実「近畿周辺部におけるアクセントの条件変化について：類の分化が見られる徳島方言・三重方言を中心に」『言語文化共同プロジェクト 2015 音声言語の研究 10』、大阪大学大学院言語文化研究科、pp23-34、2016 年 5 月</p> <p>② 東北地方から北関東、新潟県、近畿地方全域、中国・四国地方に広く分布する方言文末詞「デ」の、機能の地域差について、文献による調査を行った。今年度は四国方言の「デ」の音調と機能にどのような地域差があるのか明らかにする予定であったが、フィールドワークの時間が取れず、文献による調査にとどまった。</p> <p>③ 集団的知性及び意志決定ルールに基づき、問題分析・解決を支援するツールを共同で試作した。担当箇所は、テキストマイニングと計算機統計を用いた解析である。成果は以下の通り。</p> <p>●桐山聡、矢部玲子、三浦政司、<u>村田真実</u>「集団的知性を活用した論理的文書作成支援方法」公益社団法人日本工学教育協会 関西工学教育協会 第 64 回年次大会 第 64 回工学教育研究講演会、於大阪大学、2016 年 9 月</p> <p>④ 日本語各地の方言音声について、有声性とはどう定義されるのか、分節音や韻律との関係も踏まえて検討を行う予定であったが、フィールドワークの時間が取れず、既存のデータの再検討を行うにとどまった。</p> <p>この他、以下の成果があった。</p> <p>(著書・共著・執筆協力) <u>村田真実</u>「列島縦断！日本全国イチオシ方言 総集編（部分再録）」『日本語学』5 月号、明治書院、2016 年 5 月 (招待講演・国内) <u>村田真実</u>「&lt;学位取得者講演&gt;統計手法を用いた諸方言アクセント分類の実証的研究—京阪式アクセントと讃岐式アクセントを中心に—(徳島大学 2014)」、於首都大学東京(秋葉原サテライトキャンパス)、日本音韻論学会、2016 年 6 月 24 日 (招待講演・海外) <u>村田真実</u>「日本語教育における方言教育—方言を通して日本の多様性を知る—」、第 5 回トゥルク諸国日本語教育セミナー(於アンカラ大学、トルコ共和国)、2017 年 1 月 20 日</p>	